

愛環フォトコンテストの実施結果について

1 実施概要

(1) 募集内容	愛環や岡崎市の魅力を再発見し、愛環利用者や岡崎市来訪者が増加することを目的に、岡崎のまちの景観や情景、自然等、愛環を利用しなければ撮影できない「とっておきの瞬間をとらえた1枚」を募集
(2) テーマ	愛環の車窓からのまちの景観や情景、自然等「愛環愛」「岡崎愛」が感じられる写真
(3) 募集作品	(1) 岡崎市内の愛環の駅改札内で撮影した写真 (2) 愛環車内から岡崎市内を撮影した写真
(4) 募集期間	令和6年1月4日（木）から令和6年2月29日（木）まで
(5) 応募総数	63点（41人）
(6) 審査	実施日：令和6年3月18日（月） 審査員：岡崎市 中根康浩市長、愛知環状鉄道株 杉山直樹常務取締役

2 入賞者及び入賞作品

最優秀賞

「娘と愛環に乗り鉄した日のスナップ」 井上 剛 様

撮影場所：北岡崎駅～大門駅間



親子共に鉄道ファンの我が家。

景観の美しさ、面白さや乗り心地の良さ、何より地元の鉄道という事で愛知環状鉄道を利用する事が大好き！

娘と愛環に乗り、車両は勿論、車窓の景色を楽しむ娘の姿を撮影するのを休日の楽しみにしています。愛環での車窓からの景色で好きな場所は沢山ありますが、豊田方面から岡崎市内に入りほどなく見えてくる「日本エステル」様の威容は圧巻！

鉄道ファン+工場萌(も)えの自分には、この車窓からの圧倒的な迫力、存在感は23年前埼玉から愛知に移住し、愛環に乗って初めて観た時から今も変わりません。

工場萌(も)えではない娘にも、その存在感は伝わっているようで、通過時、ずっと目で追っています。

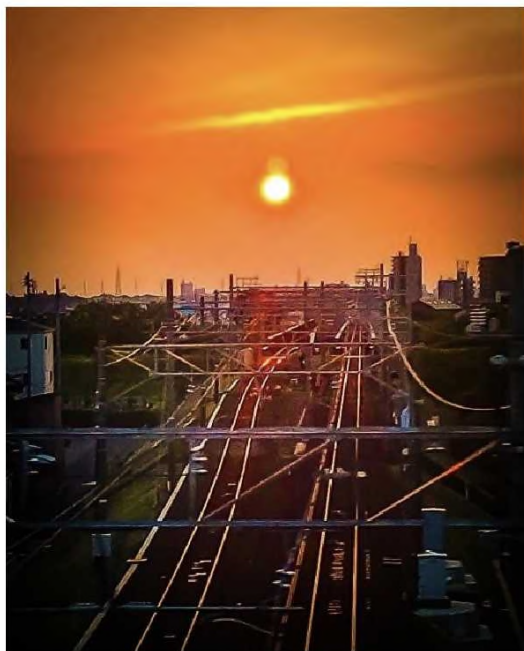
「そうか娘よ。この良さが分かるか。さすがは我が娘だ。」 そんな事を思いながら撮影した一枚がこの写真です。

※なお、今や希少となった、緑モケットシートを装着する編成を選んで乗り鉄したのが拘(こだわ)りポイントです。

優秀賞(愛環愛部門)

「車窓から見える夕陽」 吉田 徹 様

撮影場所:中岡崎駅～六名駅間



訳あって9年前から愛知環状鉄道を使って通勤する事になりました。毎日同じ電車の同じ車両乗る人も何時も一緒、なんか家族みたいな存在、居ないとどうしたのかな？なんて気になる。でも4月になるとメンバーが少し入れ替わる！
ずっとその繰り返し。私も後1年この愛環にお世話になります。愛環の岡崎市内は踏切が1つ。ほぼ高架を走ってる事から遅延がほとんど無い安心で優秀な鉄道会社だと思う。

優秀賞(岡崎愛部門)

「月のライトアップ」 小林 篤典 様

撮影場所:中岡崎駅



中岡崎駅でライトアップされた岡崎城を撮影しました。2番ホームの一番端に行くと見えるのですがこの日は偶然にも満月で岡崎城と一緒に撮影できる位置に昇っていました。

改札への階段とは反対方向の一番端なので穴場スポットかもしれません。

駅のホームから遠めに岡崎城を眺めて気分を高めてから岡崎城に向かうのも良いかもしれません。

ここからは余談なのですが、中岡崎駅で写真を撮るために階段を上ったときにちょうど発車のタイミングだったのですが、車掌さんがドアを閉めずにどうぞと言ってくれました。自分は写真を撮りにきたので大丈夫ですとお断りしたのですが、お気遣いをして下さって嬉しかったです。また、ホームで長い間撮影をしていたので運転手さんに余計な気を使わせていたら申し訳なかったです。

愛環はよく利用するのでこのフォトコンで日頃の感謝を伝えることができれば幸いです。

特別賞(愛環愛部門)

「でんしゃがきた！」 大森 翼 様

撮影場所: 六名駅



ぼくは、きょうはじめてあいかんのにりました。
お父さんにむつなえきまでおくってもらって、
お母さんとおにいちゃんといっしょにでんしゃのにりました。
こんどは、かぞくみんなでのりたいです。

「矢作川と」 久野 恵里 様

撮影場所: 北野榊塚駅～大門駅間



ペーパードライバーなため、愛環はよく利用させていただいております。数年前に愛環で購入したミニカーを旅のおともに。矢作川を渡るときに撮影。

特別賞(岡崎愛部門)

「歴史、岡崎そして愛環がさらに好きになった1年」
神谷 綾人 様

撮影場所: 中岡崎駅



名鉄沿線に住み電車好きなぼくです。特に愛知環状鉄道が好きでたまりません。緑、青、そしてジブリ仕様の愛環。乗ったり、周辺からの撮影もしました。
さらに、歴史の本を知り合いの大学の先生から頂き、興味を持ち始めた時期にちょうど大河ドラマ「どうする家康」が始まり愛環に乗って家康ゆかりの地に行ったりしました。
岡崎城や大河ドラマ館も何度も行きました。やはり最も感動したのは、大好きな愛環が家康仕様になって入線してきた時でした。あの感動は、今でも忘れません。

「岡崎城からジブリパーク」 中根 史生 様

撮影場所: 中岡崎駅～北岡崎駅間



愛環は岡崎をはじめ、自然と歴史と産業の愛知を象徴する都市をつないでいます。
ジブリパークはまさにその理念を表したもの。
その二つを車窓で表現しました。

3 審査講評

岡崎市 中根市長

「愛環愛」や「岡崎愛」があふれる作品をご応募いただき、誠にありがとうございました。

皆さん、素敵な景色を一生懸命探すことで、新たな発見があったのではないのでしょうか。

流れていく車窓からの景色を様々な視点で切り取った写真には、実に多様な岡崎の自然や歴史文化、人々の暮らしが映し出され、添えられたコメントからは、皆さんの思いが伝わり、共感を深めるものでした。

これらの写真とコメントを通して、多くの方に愛環や岡崎の魅力を知っていただければと思います。

今回は岡崎市内の取組ではありましたが、今後愛環全線の取組に発展し、将来にわたって愛環が広く、皆さんに愛される鉄道であり続けることを期待しております。

愛知環状鉄道株 杉山常務取締役

たくさんのご応募をいただき、応募者の皆様に感謝申し上げます。ご応募いただいたどの作品にも「岡崎への愛」、「愛環への愛」が感じられました。写真及びコメントを拝見すると、作品それぞれに「思い」や「物語」があり、選考するのが非常に難しかったです。

このコンテストを通じて、愛環が地域の公共交通機関として、利用される方の生活の一部を支えていること、そして何よりも、愛知環状鉄道が地域の皆様に愛されていることを改めて実感することができました。

これからも地域の皆様から愛され、皆様の生活を支えられるよう、愛知環状鉄道は走り続けてまいります。

4 表彰式の様子



▲ 表彰状授与：最優秀賞（井上 剛 様）



▲ 入賞者を囲んでの記念写真



▲ 入賞者との懇談



▲ 特別賞受賞者への商品（愛知環状鉄道株提供）